

ポイント 直接法と間接法の2種類があります。

A10 キャッシュフロー計算書には直接法と間接法の2種類があります。直接法は資金の流れを直接追っていくのに対し、間接法は貸借対照表と損益計算書をもとにして作成します。直接法の方がキャッシュフロー全体の流れがわかりやすいのですが、間接法の方が作成しやすいためほとんどの企業が間接法で作成しています。

例えば営業活動によるキャッシュフロー計算書は次のように作成します。

**直接法**・・・ 営業収入から原材料や経費などの営業支出の支払いを差し引いて計算していきます。(P/Lとスタイルが似ています)

**間接法**・・・ 税引前当期利益からまず減価償却費などの非キャッシュ費用をプラスし、売掛金や在庫の増加及び買掛金の減少等はマイナス、売掛金や在庫の増加や買掛金の減少についてはプラスして計算します。

○ 営業活動によるキャッシュフロー

(直接法)

(間接法)

営業収入	
-	商品仕入による支出
-	人件費の支出
-	その他営業支出
+	利息配当金の受取額
-	利息の支払額
-	法人税等の支払額
=営業活動によるキャッシュフロー	

税引前当期利益	
+	減価償却費等の非資金費用
-	売上債権の増加額
-	仕入債務の減少額
+	利息配当金の受取額
-	利息の支払額
-	法人税等の支払額
=営業活動によるキャッシュフロー	